

予は萬障を繰り合せて、同日正午頃會場に馳せ参じ、通されたのが、去年と同じな、三間を打ぬいた二階の座敷、予は先頭第一であ

二、全會員健在  
出席會員十五名、缺席會員七名計二十二名。一同會則を遵奉、死を忘れて一人の落着きなしとは、

三、寄せ書き  
松風會の常例行事たる、寄せ書きが始まる。藤田世話係、例によ

先づ天野首座立つて、経過報告祝電祝文の朗讀、次いで新出席者田藤田兩兄弟を紹介すれば、兩兄弟々に面白く且つ型破りの挨拶をする。酒田藤田(貞)兄弟が、會の爲

二點を得た本多兄弟の句中、「手拭のかはるたんびに赤やかん」には特に我輩苦笑せざるを得なかつた。かくて交談談笑裡に、宴を

### 内郷村報の 六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。  
二、村内外公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、親睦和總努力の實現を期す。  
三、本村共済事業の徹底を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。  
五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。  
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業に於て、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり

本紙定價 一年五元 半年三元 三ヶ月一元五角  
發行所 内郷村報社  
印刷所 平活版所

# 内郷村報

天法人則  
從順ナルベシ

## 沒頭せよ 超越せよ 臥法

大内民惠

予は今日圖らずも、磐城毎日新聞紙上、大森先醒の「春雨物語」中、村報を發行する、内郷村の村實、大内民惠「翁」云々の名文に當面、生來始めて「翁」と呼ばれ、聊か面喰ふと共に一面無量の感にもうたれ、取敢へず筆をとつて端書に

予は本紙上に於て、屢々予の人生觀であり、宗教觀である「萬有は天法に歸す」とか「南無天法人則」とかを説いた。三十歳前後時代の予は、肉體的にも、精神的にも、眞に病的であつたのであるが、一念發起、天法を將た人則を、絶對に遵奉せざるべからざることを、我々の人生であり、之を信ずることが、宗教であるといふ境地に達し、日々一切の生活が、すべて之に準據したることによつて、心身の健康を回復して、今日あるを得たのであると思はれるのである。

予の所謂「安臥法」である。予の所謂「安臥法」である。予の所謂「安臥法」である。

予は近頃、往々會ふ人々から、何時も御達者だが、何か特に健康法でも講じて居らるゝかななどと、問はれるのであるが、予は一生を過ごして、これぞ云ふ運動もしたことなく、用事以外には、殆んど旅行も湯治もしたことなく、又飲食物の至つては、それこそ日支洋の料理、何でも嫌ひはなしで、但酒丈は一滴も飲まぬ。其量は其日の胃腸の工合に、相應するのである。されど人と聊か異なつて居ると思はるゝ、生活の様

畫は其任務職域に沒頭、烈々精進し、夜は一切萬事を超越、悠悠安臥する。安臥して熟睡、醒むれば、潑洩奮闘する。「熟睡と奮闘」之が一日の行程であり、南無天法人則である。其行程を單位として、月と積み、年と重ね、一生となるのである。予の如きは、その行程の六十四年を、積み重ねたことゝなつたわけであつ

これに於て予は、之に聯關する、予が創案し命名した「安臥法」の解釋を試みやうと思ふ。

予は今日圖らずも、磐城毎日新聞紙上、大森先醒の「春雨物語」中、村報を發行する、内郷村の村實、大内民惠「翁」云々の名文に當面、生來始めて「翁」と呼ばれ、聊か面喰ふと共に一面無量の感にもうたれ、取敢へず筆をとつて端書に今日よりは我も翁となりけり

予は近頃、往々會ふ人々から、何時も御達者だが、何か特に健康法でも講じて居らるゝかななどと、問はれるのであるが、予は一生を過ごして、これぞ云ふ運動もしたことなく、用事以外には、殆んど旅行も湯治もしたことなく、又飲食物の至つては、それこそ日支洋の料理、何でも嫌ひはなしで、但酒丈は一滴も飲まぬ。其量は其日の胃腸の工合に、相應するのである。されど人と聊か異なつて居ると思はるゝ、生活の様

これに於て予は、之に聯關する、予が創案し命名した「安臥法」の解釋を試みやうと思ふ。

鏡に照らして、之を検討し批判する、即ち有念有想するのである。もとより凡人たる予、俯仰天地に愧ぢずなどといふが如き、聖域に達するを得ざるまでも、幾分にもそれに近づきつゝあつたことと思ふ時に、又一面、其日讀んだ新聞雜誌書籍等々より得た智識を通じて、現代に對しても同様の思索をなし、其歸結を見出したと思ふ時に、ヤレよかつたといふ、一大安心の心境となる。こゝに身は恰も天上界にあるが如く、いとも安らかに、翌朝迄熟睡することが出来るのである。但し其超越時間は三十分乃至一時間である。之が予の所謂「安臥法」であるのである。

これと平凡なる予は、三十年來之を繰り返して來たのであるが、現在に於て尙月一回、若しくは二月に一回は、其夜間超越時間に、自己、家族、一族、村縣、國、社會、世界等々の問題等について、次から次に、其觀察檢討が昂じ、それに對して、かくあらねばならぬといふ、理想念願(或は妄想か)が、油然湧沸

一面より續く一  
して、雞鳴曉を告ぐも、更に眠りをなさぬことがあるのである。かくて翌日は午睡を餘儀なくせらるゝのである。こゝに予は一段否數段の修養を要することを、心にかけて居るのである。

### 大政翼賛會本村關係役員

- 福島縣支部顧問 大内 民恵
- 石城郡支部顧問 濱崎善三郎
- 内郷村支部長 沼田濱之助
- ▽内郷村常會委員
- 若松 利重 島田 兼吉
- 馬目 太平治 金澤 慶一
- 野木 力 佐藤 三平
- 草野 三千雄 竹島 廉平
- 鈴木 六藏 山崎米太郎

### 角萬家禮讚

東京 外山 牧風 (前愛媛縣總務部長)

拜復 内郷村報御惠送益々御清榮邦家の爲御活動の段奉賀候  
小生退官後營々商業報國の爲精進混在候 村報上角万主人の企圖  
敬服の餘り處感二首御笑覽に供し候

同胞 翰墨 報安 危 共 助 相 扶 頌 喜 悲  
華國 精神 齊家 訓 昭々 不 易 萬 秋 垂  
羸得 營々 百 萬 財 復 眷 眷 出 後 衰 材  
齊家 興 國 一 非 二 願 以 驅 須 天 下 魁

- 遠藤萬四郎 野木 安吉
- 菅本 忠義 山下喜代治
- 上原 四郎 山崎庫太郎
- 大内 民恵 田口 淳三
- 佐藤 作藏 小松 多嘉
- 須藤德之丞 志賀 保治
- 圓谷 兼廣 武藤 義造
- 荒木 計 大橋 貞勝

### 【一】

- 高木 信吉 山崎 辰亥
- 沼田ひとし
- ▽内郷村常會參與
- 堀 一郎 増子 銀二
- 黒田吉之助 野木 繁彌
- 佐川 文雄
- ▽内郷村常會幹事
- 島田 兼吉 田口 淳三
- ▽同 書記

### 優良多 表彰要項

一、被表彰者は左の各號に該當し他の模範とするに足る家庭の父母を表彰す。

但し父又は母なきときは其現に在る一方とす。

1 父母を同じうする満六歳以上の嫡出の子女以上を自ら育成したること。

2 子女(六歳未満の子女を含む)以下之に同じ)中死亡したる者無きこと。

但し戦役事變に因り又は天災地變等避くべからざる事由に依り死亡したる者は之を生存者と見做す

### ポンプ置場 落成祝賀會

過般内郷村警防團にて購入したる自動車ポンプ置場を、役場の隣地に建築中であつたが、此程見事に竣工したので、五月四日内町國民學校に於て、之が落成祝賀會を擧行した。來賓として平警察署長、隣接町村警防團長其他約二百余名並に團員全部出席、頗る盛會であつた。

### 方面委員の更迭

高原重吉、田中宇一郎の兩氏は、今回任期満了したるを以て、若松利重、野木力、の兩氏、之に代つて新に

に任命せられた。

全國方面大會出席決定  
五月十八日より三日間、山口縣宇部市に開催せらるゝ、第十二回全國方面委員會に、縣代表として、本

### 麥笛吟社同人句抄

探炭婦待てる坑夫や春夕  
断層に海の跡あり岩すみれ  
小波の軸にうかみと春蚊かな  
今年こそ銀えんからた夏は來ぬ  
立波草錦衣と蝶うつる

林 若 樹

酒桶の大口あいて陽炎るへる  
耕馬うつり蛙の波紋をりなり  
蛙の水沈めしもの來てつづける  
狂ひたる柱時計や夢の秋  
夢秋や時計背及びて付話

高木 撫山

曇りやせつきしこのる菜の花  
畔塗るやべだんさめてし終に秋  
春雨や小粉團はまだ雷から  
一八やひさ日の雨に咲きたる  
藤咲いて社宅住居もまたたのし  
拜殿のわが膝に來る落花かな

石田 修 二

雪山を北に乘降り春の人  
春の水石のり上げてほころびぬ  
辛夷の芽風にさかちてはひかり  
驚にうははれがちに聴診器  
蝶の夢雪の遠嶺をうちかつき  
湖來り菜の花はたけおほまわり  
いつくさもなく去りて春の雷  
春の蚊をたいてやりと小さいかひ

### 日本評論社

發行所 東京橋本三丁目  
東京橋本三丁目  
取次所 内郷村報社

紙質補助金寄贈芳名  
金拾圓 福島 白石 禎美  
金貳圓 同 目黒 宗英  
金貳圓 同 佐藤寅次郎

### 教育制度改革概論

服部宇之吉 大内民恵著  
矢野恒太序

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

### 常會委員會例會

五月十五日午後三時、傳達徹底を期せらるゝ様、議事堂に開會。沼田村長は議長より希望があつた。

### 先般後進に途を開いて之を

辭任したのであつたが、區民全部の熱望阻止難く、遂に重任することゝなつた。

### 我國教育學界の權威

前東京大總長小西重直博士  
悲を寄せて曰く、多年、御體験下實地ノ御試練ニ基テ眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議ニ打テ申候云々。

### 内郷村報社

一四画より續く一  
閉ちて一同夕飯をすませます。  
六、團基謠曲體操  
食後子は一浴して、藤田(眞)兄と連れ立って町内を散策し、例

服部宇之吉 大内民惠著  
矢野恒太序

### 教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵稅六錢)

行き詰る現代の教育制度を解體して、學理を實踐し、歴史を實驗から新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃を逗めらる。味仕り不思議ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社 東京橋三丁目  
取次所 内郷村報社

◎本紙贊助金寄贈芳名  
金拾圓 福島 白石 頑美  
金貳圓 同 目黒 宗英  
金貳圓 同 佐藤寅次郎

## 常會委員會例會

五月十五日午後三時、議事堂に開會。沼田村長は縣町村長會に出席したるを以て、金澤助役之に代つて議長をつとむ。委員參與は殆んど缺席者なし。一同嚴肅に規定の儀禮を行ひ、鈴木書記より

イ 本月全國に亘つて實施せらるる、第十五回兒童愛護運動に關する「全國兒童愛護運動 母親回覽板 子供を丈夫に育てませう!」を自五月十五日、至五月十八日、「防諜週間!!」ハ「隣保班申合」の印刷物を配附して、其朗讀説明を行ひ、議長よりは山林組合の件、産業統計の件(申告制度に變更)等に就いて説明があり、次いで大内委員より、前例會に於て、委嘱をうけ軍人歡送旗樹立の件につき、福島聯隊區司令官に出頭、調査したる概要の報告あり、引き続き特に平警察署より派遣せられた、梅林寺部長より、重要な注意事項の講話があつて、正五時散會した。而して「イ」「ロ」「ハ」の印刷物を三百枚を作製、村内各隣保班に配付するを以て、各委員は急速に趣旨を

### 隣保班申合事項

一、常會日時は時間を必ず守りませう。二、主人も主婦も出席し其模様は家族全部に傳へませう。三、着席は遠慮をせずに到着順と致ませう。四、獨り喋りはやめにして皆の意見も聞きませう。五、蔭でぶつ／＼云はないで自分の意見も述べませう。六、見榮を張らずに氣取らずに皆んな同じ立場にて教へられたり教へませう。七、勝手な不平は語らずに皆の爲の爲を考へませう。八、無理な申合せは不可ませぬ先づ實行出来ることを決めませう。九、一人一役買つて出て我隣組に盡しませう。十、隣組は我家庭、困つたことは他所へは云はずに先づ我隣組に打明けませう。以上

### 山下氏の信望

十有余年名區長と仰がれた、小島の山下喜代治氏は

### 磐炭健康者表彰

五月四日淺野記念に於て舉行。被表彰者中十四ヶ年「ほごごぎす」入選句

春山に包まれ温泉の村靜か  
石田修二  
舟漕てあそびに來る賑春の水

讀賣新聞入選歌句

野本 多慶夫  
わが頬にまつりて吹く菜の花の風快きの疲れかも  
田中 政男  
山を破る發破さるるきひさき鳥啼き止めしかまた啼きはじむ  
原 ひでを  
舉手厳し櫻吹雪のなかにあて  
岡田あきら  
蝌蚪の渦とけし水によ見の面輪  
小山 俊  
狂ひ風砂丘に落ちて砂を噛む

### 磐炭日誌抄録

四月十五十六日兩日にわたつて山神祭執行。

### 日本評論社

發行所 日本評論社 東京橋三丁目  
取次所 内郷村報社

### 祝電 祝文

東京の須子兄からは、「感謝する行けぬよろしく」、仙臺の渡邊姉からは、「花に寄る人皆若くおはします」の祝電があり、近津の永山兄からは、天野兄に宛て、言々句々、情緒纏綿將た不羈豪快の名文を寄せられ、一同襟を正して之を拜聴した。予は其全文をここに掲載する余なきを、遺憾とするものである。希くは來年の會には、必ず出席せられ、全會員に「活」を入れて下さらんことを!

### 八、散會

翌朝、入浴してすがすがしく気分となつて、一同朝餐の食膳に就く。先づ本多兄を中心に、左党によつて残酒整理の勞をせられ、天野首座によつて、喝采裡に懸賞品(雅趣に富んだ小さな置物)の授與が行はれ、會計報告、會費徵收(七圓余)等々があつて、散會することとなり、來年の再會を期して、夫々歸途に就いた。この例會に一抹の淋しさを感じたことは、最長老にして、題字の花たる加藤兄、豪快、談論風發の吉村兄、中堅の雄たる宮内兄、自亮林中瀆紅二點中の一たる、幼年部渡邊女史等四名の缺席であつた。希くは會規を遵奉して、自重自愛、勇躍萬障を排して、第四回の例會を賑はされんことを!!

### 磐炭日誌抄録

五月三日。午後七時より記念館に於て、東日平支部主催の時局講演會を開催。講師藤井少將、盛會を極む

同日。午前午後記念館に於て映畫會開催之亦盛會

### 第三回松風會の記

#### 大内民恵

一、はしがき  
松風會の會則、其會員の面々等々の概要概観は、丁度昨年の今月今日發行の、本紙上に掲載してあつたので、本縣の教育界に關心をもつて居らる、讀者諸賢には、既に御記憶の事と思ふから、之を省

出席者氏名	年齢	體量	孫數	退職當時	現住所
菅野三郎治	七四	一四〇	一八	石川小學校長	信夫、渡利
本多 忠綱	七四	一一二	一九	福井師範校長	石城、泉
佐藤 幸三郎	七三	一〇〇	一五	福島高女教員	同、飯坂
佐藤 幸三郎	七三	一〇〇	一五	福島中學教諭	同、飯坂
天野 助治	七二	一一〇	一四	福島市學務課長	福島、新町
長尾松三郎	七一	一一〇	一四	八王子高女校長	福島西、釜山
一谷源八郎	六九	一一〇	一四	福島中學校長	福島、松木
近藤節太郎	六九	一一〇	一四	福島商業校長	白河、町田
高今朝四郎	六八	一一〇	一四	福島商業校長	福島、仲田
藤田 誠壽	六七	一一〇	一四	福島市學務課長	郡山、清水
大内玄之助	六七	一一〇	一四	郡山商業校長	郡山、赤木
蛭田留次郎	六七	一一〇	一四	福島師範教諭	福島、大谷
目黒 宗英	六五	一一〇	一四	福島商業校長	福島、上地
大内 民恵	六四	一一〇	一四	福島商業校長	福島、大谷
藤田 貞雄	六三	一一〇	一四	福島商業校長	福島、大谷
▽年令合計一〇三六、平均六九強。					
▽孫數合計一〇三六、平均六九強。					
▽當日出席者は左の通であつた。					
加藤友之助	七六	×××	××	福島高女教諭	福島萬世町
吉村 五郎	七四	×××	××	若松第一校長	若松、柴町
今野甚三郎	七二	×××	××	梁川小學校長	信夫、茂庭
須子 信之	七〇	×××	××	記者 不明	東京、近津
永山芳之助	七〇	×××	××	×× 郡長	東白川、津濱
宮内 榮吾	六九	×××	××	福島商業校長	福島、霞内
渡邊 ミツ	五六	×××	××	福島高女教諭	仙臺元柳町

略することとする。  
さて本年の第三回例會は、例によつて例の通り、昨年と同月同日同處たる、即ち四月二十二日、飯坂温泉泉洲閣に於て開かれたのである。  
予は萬障を繰り合せて、同日正午頃會場に馳せ参じ、通されたのが、去年と同じな、三間を打たれた二階の座敷、予は先頭第一であ

先つて大慶至極である。何れも到着早々、何を措いても、先つ一浴に及ぶ。  
新たに参加したるは、蛭田、藤田(誠)の兩兄、されど皆舊知昵懇の間柄なれば、其挨拶たるや、頗る簡單ではあるが、何れも學生時代にかへり、教員時代にかへりまつた現在の生活にわたつて、次から次々、綿々盡きざる、其物語や談論たるや、興味津々、眞に春



(真)田藤 (民)内大 内大 田藤 谷一 田蛭 黒目 高  
藤近 野菅 藤佐 多本 藤佐 野天 尾長

つて十五枚の半切を場内に展開する。願字は最長老の役目であつて本多兄が其健筆を揮ふ。之が済まなければ、お膳が並べられなから、推進よろしくあつて、以下は、相繼らず、夫々自作他作の雅言名語、和歌俳句等々、名筆を揮ふ。  
四、記念撮影  
去年の撮影は、光頭皎々！白髪

に、苦心慘憺、幾日かにわたつて用意して、自ら持参したと稱する瓶酒二升を、銚子にうつして、燗のよいさるを運ばせる。一滴も飲めない予などは、一向無關心であつたが、本多大内(亥)兩兄の恵比壽願、大黒顔を見ては、藤田兄の功徳を讃嘆せざるを得なかつた。十五人に對して二升！其反則ならざるには、又安心した。呵々

三、寄せ書き  
松風會の常例行事たる、寄せ書きが始まる。藤田世話係、例によ

五、懸賞即吟  
又も例によつて、係より何なりと匿名で、二句づつ、捻り出せ、用紙を突きつけられ、一同立ちどころに之に應じ、披露互選の結果最高點次點の榮冠は、藤田兩弟兄

風騒蕩たりだ。  
時に佐藤姉より、他よりの寄贈物だぞ稱して、幾枚かの茶葉子を提供せらる。時節柄分不足の面々、子供に返つて、また、く間に之を平らげた光景も亦一興！

撮影が済んで席に戻れば、既に配膳されてあつた。一同例によつて年長順に着席、但し佐藤姉丈は去年予との道行關係を、全員承認年少予と相並ぶことを許さる。  
先つ天野首席立つて、経過報告祝電祝文の朗讀、次いで新出席者田藤田兩兄を紹介すれば、兩兄次々に面白く且つ型破りの挨拶をする。酒、藤田(真)兄が、會の爲

### 内郷村報の六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、総親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

式がたゞ一つあると思ふ。此機會に於て、其概要を披露して、讀者諸賢の御批教を仰がうと思ふ。

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社説は予孫に對する遺言を兼ねるものなり  
行發日五十月一年一第  
本紙定價一圓五分、少年部四角、八分  
發行所 内郷村報社  
社址 内郷村 報社  
印刷所 平野活版所

# 内郷村報

天法人則  
從順ナ